

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾461-1
電話 0267-67-2460

2025(令和8)年

仏暦2569年

6月号

(第177号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホッがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



法住 話職

「冥土」ではなく「浄土」



正信念仏偈に学ぶ
必至無量光明土
諸有衆生皆普化
かならず無量光明土に至
れば、諸有の衆生みなあ
まねく化すといへり。

「現代語訳」
はかり知れない光明の浄
土に至ると、あらゆる迷い
の衆生を導くことができ
る」と述べられた。

前々回の句「往還回向由他
力」で、往相も還相も他力の
回向であると曇鸞大師は示さ
れました。字の示すように本
願他力は、浄土へ往くはたら
きと浄土から還ってくる二つ
のはたらきがあるといわれた
ところです。

親鸞さまは高僧和讃にも述
べられます。
還相の回向とよくことは
利他教化の果をえしめ
すなはち諸有に回入して
普賢の徳を修するなり
(還相の回向として説かれて

いるのは、わたしたちに思い
のままに人々を教え導くとい
うさとりを与えられ、ただち
に迷いの世界に戻って、大い
なる慈しみの心からあらゆ
るものを救わせていただくこ
うである。)

一般に、浄土へどのように
して往かせていただくのか興
味あるところです。しかし、
ここでは、浄土に仏さまと
して生まれられると、衆生
である迷える私たちを救い導
くためすぐに還ってこられる
といわれるのです。

それは、お浄土が「無量
光明土」といわれる、はか
り知れない光明の世界であ
るからだといわれるのです。

お葬式で、よく故人に向け
て「ご冥福をお祈りいたしま
す」という表現があります。
冥福とは、あの世での幸福を
意味するようですが、「冥」
は「冥土」と言って暗いとい
う意味があります。ですから、
暗い世界へ往かないようにと
七日ごとにお勤めをして四十
九日法要をもつて仏さまと
成るといふ他宗の中陰の教

えがあります。

しかし、浄土真宗の見方は
違ってきます。人間はいのち
終わるまで煩惱を断つことな
ど出来ないものです。この世
で煩惱が断てないものだから
冥土という暗い世界へ往くの
ではなく、いのち終えた時に、
本願他力のはたらきによつ
て、お浄土という光明の世
界に仏さまとして生まれさ
せていただくというのです。

四十九日法要は一般的にな
り、私もお勤めしますが、慣
習をもつて仏さまの教えに
ふれる法要としています。

どちらも仏さまになるこ
とは一緒ですが、浄土真宗は、
「無量光明土」という光輝
く世界があるからこそ、本願
他力によつてすぐにはたらい
てくださるということです。
なんと本願他力の有り難さを
感じるのです。

先立たれた方は見えなくな
も、仏さまとして還ってこ
られて、日々見護られ導かれ
ていると感じることが救いな
のでしよう。

仏教語豆事典

意識・意地

「第六識」ともいう心のはたらき

意識は哲学や心理学の分野だけでなく、「異性を意識する」「自意識過剰」「勝ちを意識してかたくなる」など、一般にも用いられている言葉です。

また、意地も「男の意地」「女の意地」とか「意地が悪い」「意地をはる」など、日常語となっています。

仏教では、物を見るはたらきの眼識、音を聞く耳識、においを嗅ぐ鼻識、味わう舌識、触れる身識の五つの感覚器官を「五識」といい、その奥にあって、それらを含めた一切のものを総括的にとらえ、認識し推理し追想する心のはたらきを「第六識」とか意識といいます。

このような意識は、ひとりひとりの人間の全体を支配し、認識作用の根源であり、物事が成立されるところなので意地ともいうのです。心根という意味なのでしょう。

仏教語であった意識や意地という語が、今では学術用語や日常語として、りっぱに通用している例です。



異口同音

お釈迦さまの説法に感激して

「次の時間にテストをします」といえば、教室中が「エエーッ」。初めて聞くような話でもすれば「ウッソー」の大合唱。女子校に勤めていますと、こんな風景は日常茶飯事です。まさに、異口同音の世界です。

異口同音とは、多くの人が口をそろえて、同じことを言うこと。多くの人の説が一致することを意味する言葉です。

身は異なるから「異口」で、語説は一致するから「同音」です。語る人はそれぞれ異なっても、語る内容は同じというわけで、『弥勒成仏経』などの仏典にもよく出てくる言葉です。

お釈迦さまの説法に際しても、感激のあまり、大衆が一斉に讃歎した情景が、いろいろの仏典に描かれています。

『今昔物語』には「仏の御名を唱えて利生に預からんと言いて、五百人異口同音を挙げて」とあります。

現在では、異口同音はさまざまな場面で使われていますが、本堂いっぱい集まった信者たちが、みな、口々にお念仏を称えるなどすばらしい情景ですね。



「くらしの仏教語豆事典」文・辻本敬順 絵・寄藤文平／本願寺出版社刊より

編集後記

また暑い季節がやってきます。今年はどうなるのか、今から心配になります。◆今回の法話は、他の教えと比較しながら進めました。否定することではなく、浄土真宗では「冥福」という言い方をしないということなのです。



年忌法要表

1 周忌	2025 (令和 7) 年	23 回忌	2004 (平成16) 年
3 回忌	2024 (令和 6) 年	25 回忌	2002 (平成14) 年
7 回忌	2020 (令和 2) 年	27 回忌	2000 (平成12) 年
13 回忌	2014 (平成26) 年	33 回忌	1994 (平成 6) 年
17 回忌	2010 (平成22) 年	50 回忌	1977 (昭和52) 年